

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人 仁秀会		
事業所名	グループホーム たいよう	ユニット名	二号館
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北6219-42		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議にて職員全員で理念の再構築を行い、職員一人一人が理念を意識しながら支援するようにしている。又、会議等での確認も行っている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加したり、近隣の方が定期的に手作りのごみ箱を持ってこられ談笑されている。又、中学生の職場体験を受け入れ、子供たちとの交流を行っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム側からの働き掛けは少なく、地域貢献といえる事はできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や入居者状況について報告を行っている。評価に対する取り組みが不十分な所もあるため、今後職員で話し合いサービス向上に活かしたいと思う。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当の方に出席して頂いている。そのほかにも直接ホームに來られ話しをしたり、電話相談なども行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成し、その対象となる具体的な行為について全職員が理解・認識するよう会議等で話し合い、身体拘束およびそれに繋がる行為をしないケアの実践に努めている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会議で全職員に対し自己点検シートにて利用者への接し方を振り返ってもらい、虐待について意識を高め、不適切なケアの段階で発見し、虐待の芽を摘む取り組みをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会は少ない。必要としている人達に活用できるような支援は行えていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を用い、時間をかけて説明を行うようにしている。質問等を確認し、いつでも相談できることを伝えている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議等でご家族の意見を聞くようにしている。又、意見の出しやすい雰囲気づくりにも努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング以外でも、運営に関する意見を聞くようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者が機会があるごとに職員の状況を話し合うようにしている。実績に応じた昇給や、資格・職種に応じた手当、希望休、有給を取得できるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内勉強会や新人職員の勉強会を始め、グループホーム連絡協議会研修会や認知症講演会への参加を促し、全職員が認知症ケアについて理解を深められるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修会や懇親会等に参加している。ネットワークを拡げて情報交換の場としている。			

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人一人に合わせた声かけや雰囲気づくりを心掛けながら、本人の言葉や表情・しぐさ等から気持ちを知るよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在に至るまでの家族の状況を知り、不安や要望等を時間をかけて聴くようにしている。又、家族が面会に来やすいホームの雰囲気づくり(職員の接遇・マナー、面会時間の制限をしない)に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からきちんと話を聴くこと。本人の状況から見て、必要な支援は何なのか検討するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの本人の生き方や、その時の気持ちを大切にしながら、自宅で行ってきたことを継続できるように支援を行っている。又、隣に座りゆっくりとした時間を過ごすことも安心感に繋がることを理解し、コミュニケーションをとっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅への外泊や外出、家族との外食、法事や墓参り等、ご家族からも支援を頂いている。いつでも面会に来て頂けるような雰囲気づくりと声掛けをしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスを利用されているなじみの方を訪ね、一緒にレク活動やお話をして過ごしたり、地域の祭りに出かける等している。知人等が面会に来やすい環境づくりも心掛けている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の入居者の会話や行動・表情等を観察して関係把握を行い、出来るだけ孤立しないように努めてはいるが、難しい状況になる場合もある。しかし、入居者同士で励まし合ったり家事を協力し合う場面もしばしば見られる。			

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの生活が終了しても移り先の関係者に本人の情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の入居者同士の会話を聴いたり、職員とのやり取りの中で気持ちを知るようにしている。常にお一人お一人に関心を払い、何でも言えるような関係を築いていくよう努めている。困難でも声掛けと観察などで把握に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネージャーから情報を聴いている。日常会話の中から、新たな情報を得ることもあり、全職員がその把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の状態を常に観察し、職員全員が本人の状況を総合的に把握してケアに繋げるよう、職員会議やミーティングにおいて報告・連絡・相談するようにしている。全職員が情報を共有することで、自己流のケアや出来ることを奪うケアをしないようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の今の気持ちを優先させながら、面会時や担当者会議で家族の意見や要望等も取り入れるようにしている。又、その人に注目して正確な情報を集め、本人が望む暮らしに近づけるような計画書作りに努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は個別の記録に記入している。職員の働きかけに対して本人の反応や言葉等を細かくありのまま記録するように伝えている。見直しにはケース記録を活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて病院受診等対応できる事は支援するようにしている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(二号館)

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験やボランティアによる演奏会・日本舞踊等は行ってきたが、地域資源を生かした活動は行っていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月に一度の往診を行っている。又、家族の希望に沿い病院受診も行うようにしている。認知症専門医への受診も状態に合わせて行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱や食欲不振、便秘、むくみなどの状態変化や異常がある時や気になることはすぐに看護師に報告相談している。受診が必要な場合は速やかに対応するようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に本人の情報を提供している。面会時には状態を見たり、治療方針を聞き家族と相談等し、退院に向けた話し合いも行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には現在の状態を把握していただく為にも面会に来られた時に説明を行っている。ホームでどこまで支援が出来るのかや今後起こり得る状態も併せて説明し、医療的な措置が必要となれば入院になることも伝えている。基本、看取りは行わない方針である。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは作成している。新人職員は心肺蘇生等の訓練を行っていないので、今後AEDを使っての訓練をしていく予定である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月に避難訓練を予定している。自動通報装置を使っての訓練は実施したが、地域住民の方達にも協力していただけるよう働きかけていく必要がある。防災ハザードマップと災害持出袋は備えている。			

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況によっては難しい時もあるが、個別性を重視して声掛けや対応をするようにしている。会議やミーティング以外でも全職員が情報を共有し、お一人お一人に合わせた支援について話し合い確認している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決められるような簡単な問いかけをしたり、思いを伝えられない方には表情を観察する等して気持ちを知るよう努力している。又、日頃からコミュニケーションをとり、信頼関係を築くよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思やペースに合わせ、朝の起床時間をずらしたり、入浴希望があれば予定していない日でも出来るだけ入れるように支援しているが、まだまだ職員側の都合を優先していることも多いように思う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選べる方はその日に着る服を選んだり、出来ない方へは色やデザイン等の好みに合わせた服選びをしている。美容室に出掛けカットやパーマをかける方、白髪染めを希望される方には職員が支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや味付け、盛り付け、片付け等一緒に行うようにしている。台所に立つことが難しい方は、テーブルでお茶パック詰めやお盆拭き等して頂いている。食事は職員も同じテーブルで食べ、楽しい時間になるようにしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を把握し、水分不足の方については排尿内容も確認し好みの飲料を用意する等行っている。果物やふりかけ、漬物等用意し食が進むよう工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入れ歯をはずし歯磨きやうがいをするようにしている。無理な方は洗面所に来た時にさりげなく声を掛け口腔ケアをするようにしている。しかし、中には口腔ケアを嫌がられ誘導が難しい方もいらっしゃる。入れ歯の不具合があれば家族に連絡し歯科受診を勧めている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(二号館)

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は尿とりを使っている方でもトイレで排泄するように支援している。尿パット内での排尿が少なくなるように定期的に声かけ・トイレ案内をしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取量に注意したり軽体操を取り入れているが、便秘がちな方には医師に相談し薬を使っている。自然排便に繋がられるよう食後はトイレに座るようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日あるが時間帯は職員の多い日中にしており、お一人お一人の生活習慣に合わせた支援は行えていない。入浴予定でない方の希望があれば、出来るだけ希望に沿うよう努めている。又、男性職員での介助が嫌な場合は女性職員が対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で休むことができるようにしている。シーツ洗濯や布団干し、冬場は電気カーペットや湯たんぽを使用している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気と服薬している薬を把握できるようファイルを作成している。新薬や頓服薬が処方された場合は、その都度全職員に引き継ぎを行っている。主治医には症状を報告し、薬の調整を行えるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の興味や関心のある事を見つけるようにしている。料理や掃除、お盆拭きやおしぼりたたみ、裁縫や音楽レクリエーション等行っている。気分転換に買い物や外出等の支援もしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの神社や商店に歩いて出掛けたり、家族が親戚の自宅や墓参り、自宅へ一時帰宅できるよう支援をいただいている。病院でのリハビリや美容室に行くこともある。			

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	計画的にお金を使う事が困難であるが持っていないと不安になる方は、ご家族から定期的にお小遣いを渡して頂き、一緒に買い物に出掛けて支払まで自分で行えるよう支援はしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて下さいと言われる方には家族に電話をするようにしている。手紙については、中々会えない遠方のご家族に写真を同封し送ることもある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾品や花を飾ったり、目立つ場所にカレンダーを掛けている。又、常に室内温度や湿度に注意を払い、空調を行っている。除菌・消臭効果のある加湿器も取り入れている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間での一人になれる空間づくりはできていない。気の合う方同士がゆっくりと過ごせるようなソファの配置にはしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスやベットを持ちこんでいる。カレンダーやぬいぐるみ、家族の写真、家族からの手紙、誕生日のお祝いカード等を飾っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがあれば歩行が可能な場所には、新たに設置したり、設置予定である。トイレの場所が分からない方に対しては、案内の貼り紙をしている。しかし、まだまだ工夫が必要な所もあり、今後検討していく必要がある。			